

(参考様式4-1)

佐呂間地区活性化計画 改善計画書

平成26年9月17日作成

都道府県名	計画主体名	地区名	計画期間	実施期間
北海道	佐呂間町	佐呂間地区	H22~H25	H23
事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体	
乾燥調製貯蔵施設	土地造成、調査設計費、飼料調整棟1棟、飼料貯蔵施設31基、サイレージ取出機2台、フォークリフト1台、圧縮梱包設備2台、飼料タンク17基、飼料混合機2台、各付属装置		佐呂間町農業協同組合	
高生産性農業用機械施設	自走モアコン1台、堆肥散布機1台、尿散布機1台		佐呂間町農業協同組合	

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
定住人口の確保	1.03	-9.57	-929.1	
地域産物の販売量の増加	2.94	-3.12	-106.1	

2 目標が達成されなかった要因

<p>■ 定住人口の確保</p> <ul style="list-style-type: none">・ 転出人口は計画値の96%と抑えることが出来たが、転入人口が83%と計画値を大きく下回った。農業就労者の転入においては計画値9名に対し33名と大きく上回っていることから、他産業におけるは要因が考えられる。 <p>■ 地域産物の販売量の増加</p> <ul style="list-style-type: none">・ 農業情勢の変化や家族形態に基づく高齢農家等の離農により出荷戸数の減少・ 自然災害による施設被害・ 平成23年及び24年の夏季の高温による暑熱ストレスの発生と繁殖成績の悪化、飼料用とうもろこしの平成23年から25年にかけての「すす紋病」の発生により原料品質が悪化
--

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度	平成29年度
事業の推進体制	町・農協・普及センター等、関係機関との連携を図る
具体的取組方策	<p>■ 定住人口の確保</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本町の出生率は1.74と全国平均1.43、道内平均1.28を大きく上回っています。要因は第一次産業後継者の出産増、町内企業の雇用増により近年の結婚、出産が相次いでいることが考えられます。本町は、「さろま子育て応援医療費助成事業」により中学生までの医療負担無料化を行っており、更に小中学生の通学支援や保育所、子育て支援センター等、各機関の連携により「子育て支援事業」の充実が図られています。このことから今後もこの傾向は続くものと思われ、定住人口の確保に繋がるものと考えられる。・ 定住促進対策として住宅用地の分譲、H21年度から5年間の予定で個人住宅の新築・改修等に対する助成を実施してきたが更にH30年度まで延長、H25年度から商工業者が行う店舗改修

	<p>や設備投資に係る費用の一部助成を実施している。これらの制度の充実と周知徹底により雇用促進、定住促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者の花嫁対策として、農協が実施する事業に対し支援を行っているが、H25年度から農業・漁業・商工業青年部が企画するお見合い事業・街コンへの支援を行っている。事業継続に向け支援を行い転入人口の増加に努める。 ・人口の自然減防止対策として、佐呂間町健康マイレージ制度“サロマゲンキマイレージ”の実施を通じ、健康づくり活動並びに各種検診の参加率向上に取り組んでいる。 <p>■地域産物の販売量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生乳生産の目標達成に向けて良質粗飼料の確保が重要であるため、道の補助事業により暗渠排水を中心とした土地改良を実施しているが、更に草地更新や心破等も計画的に進める。 ・全町の草地、飼料用とうもろこし圃場の土壌分析を実施し、施肥設計に基づく適正施肥により増収を図る。 ・コントラクターによる粗飼料収穫において、大型作業機械を増車し、適期収穫を図る。 ・農家個々の規模拡大に伴い、労働力支援を目的に既存のJA育成センターを1.5倍の施設に拡充する。 ・規模拡大者への支援策として、町とJAで基金を造成し運転資金対応の支援（債務保証）に取り組んでいるが、更に拡充を図り規模拡大を推奨する。 ・生乳増産対策として、乳用牛増頭助成対策及び家畜貸付対策を実施する。 ・乳牛の安楽性の向上 これまでの換気扇設置台数増加の他、牛床マットや給水設備の改善など、乳牛の安楽性向上に関連する資材導入・更新を行い生産向上を図る。 ・乳房炎防除対策の強化 「佐呂間町乳質改善協議会」による生産者への啓発、搾乳立会などの乳房炎防除活動を強化し、乳房炎発生を低減し乳量損失を減少させる。
--	--

4 改善計画に対する第三者の意見

<p>(コメント)</p> <p>地域産物の販売量の増加（生乳出荷乳量）は本交付金事業での機械施設導入により、TMRセンター利用農家での労働力に余裕が生まれたことで新規投資による頭数規模拡大が進み、佐呂間町全体の経産牛頭数を出荷戸数で割り返した平成25年の1戸当たり経産牛頭数実績は53.5頭で同時点での目標値は達成されており、今後も拡大が期待できる。</p> <p>自給飼料栽培及び調製、乳牛の安楽性の向上、衛生的乳質改善については、関係機関の連携強化を通じた生産者への支援を強化することにより、目標達成は可能と考える。</p>
